

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108217		
法人名	社会福祉法人新秋会		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	秋田市土崎港中央4丁目4番16号		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当時より変わらない「いつまでも自分らしく穏やかな生活をしたい」、理念として職員一同、入居されている方が安心して生活して頂けるよう努めております。日々の生活の中から、入居者の方のニーズを見つけ、毎月のミーティング、毎日の会話の中でスタッフ間で共有し、対応しております。また職員の心がけとして「ありがとうの言葉・感謝の気持ち・お互いさまの心」を掲げ、入居者、ご家族、職員間でコミュニケーション・連携がとれるようにしております。ホーム向かいの協力医院が閉鎖となり、新しい主治医への変更などの際に、ご家族様にご心配をおかけしたと思います。職員一同理念を胸に、また職員の定着化を図り、利用者への日々の安心した生活をご支援させて頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年12月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は理念通りの暮らしになるように「自分らしさとは何か」を問い、職員の「私は、こう思う」という意見に耳を傾け共に取り組んでいる事業所である。一人ひとりの入居者を尊重した言葉使い、会話の中から得るもの、失敗して得るもの、少しずつ情報を集め職員間で共有しながら その人らしい穏やかな生活が続くようにと支えている。地域のお祭りには、町内以外の曳山もホーム前に止めて演芸や囃子を披露してくれている。ホームでは地元ならではのカスベを煮てお祭りを盛り上げ、生活の歴史を思い出させている。生活歴を大切に、今取り組めることを管理者、職員で話し合い、安心して穏やかに過ごしていけるようにと、取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでも自分らしく穏やかに生活したい」をホームの理念とし、また「ありがとうの言葉・感謝の気持ち・お互いさまのこころ」を大事にする心がけを職員が共有しております。	理念は開設当初から変わらない。理念を常に念頭におき、「その人らしさは何か、その人の穏やかな生活とは何か」について話し合いを重ね、実践を踏まえ職員全体で確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、近隣の知り合いの方が訪ねてきたり、その方と他の利用者の方が仲良くなられる場面が見られます。また土崎港祭りでは曳山が止まって踊りを披露してくれたり、一緒に写真を撮ったりしています。	事業所は地域から認知症の施設として認識され理解されている。入居者の家族や親せき、近隣の方の訪問は日常的であり、訪問しやすい雰囲気もある。地区のお祭りではホーム前に曳山を止め演芸を披露し、入居者を楽しませてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報誌を配布しグループホームの紹介をしております。学生の見学、実習の受け入れも積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方が集まり、気軽な雰囲気の中で自分の感じていることを話していると思います。	運営推進会議は定期的開催され、事業所の取り組みを積極的に報告している。	運営推進会議では取り組みを報告するだけではなく、課題を話し合ったり、意見を求めたり、今後のサービス向上に結び付くような会議内容になること、また、地域包括支援センターの参加で理解を得ることも大きいと思われる。今後の取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	秋田市介護保険課、監査指導室を中心に関わってもらっております。	生活保護受給の利用者や成年後見制度の利用者など、行政の各課担当者と密に連絡を取り、協力関係を築きながら事業所の実情を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含め、身体拘束はその人の尊厳を奪う虐待であることを強く認識し、「いつまでも自分らしく穏やかに暮らしたい」の理念のもとケアしております。	事業所全体で身体拘束の内容と弊害を認識し実践に取り組んでいる。退院してきた入居者が「自分らしさ」を取り戻し普段の生活に戻ることができるようまで時間をかけ対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルを整備し、外部研修へ職員が交代で参加し、職員間で共有するようにしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し職員間で共有できるように努めています。ミーティングでも話し合い個々の職員の意識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が相談受付時、契約時、制度改正時に契約書・重要事項説明書にて説明を行っております。当施設以外の相談にも柔軟に対応し関係各所へ連絡しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当受付者を掲示し、ご家族の面会時に、要望等がないか伺いし、職員で共有しております。	ご家族の面会時や連絡を取り合った際に要望や意見を伺うようにしている。出された要望は全て活かせるよう全体で話し合い、前向きに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで介護リーダーが意見を取りまとめ管理者へ報告し、代表者へ報告しできる限り反映できるようにしております。	毎月のミーティングで意見を聞く機会がある。また、毎日の申し送りや事前の問題提供で職員から出された意見を聴き、要望に応えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士登用制度があり、当ホームでも過去3名の職員がこの制度で正社員となっております。職員の希望に沿った休暇を取れるようにし、年休も月一回は取れるようにし職員のストレス緩和に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に夜勤以外の職員が参加し内部勉強会を行っています。外部研修にも積極的に参加するようにし内容は職員全員で把握できるようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市グループホームケアパートナーズに参加し研修会や合同作品展などで意見交換している他、相互訪問で他事業所を見学し自施設のサービス向上に繋がるように努めております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問の際に、ご本人ご家族の方から要望をお聴きするようにしております。特にご本人からは不安に思うことについて説明し安心して入居して頂き、入居後も日々要望をお聴きしながらケアしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろんのこと、入居されて間もない間は特に、ご家族の方に生活状況を細かくお伝えし要望等に対応するようにしております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員で一つの家族であるという考えのもと、各自が役割をもってもらい、職員から「ありがとう」の言葉と気持ちをお伝えし、お互いが信頼しあい生活できるように心がけております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には可能な限り、面会や行事へ参加いただき、ご本人が少しでも安心して生活していけるようにし、ホームでの生活がより良いものになるように一緒に支えていくようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やお知り合い、ご親戚などの面会に特に制限は設けておりません。行事にも参加して頂けるように、面会の際に予定などをお伝えしております。	面会の制限は設けてはない。友人、知人「近くに来たから・・・」と気軽に立ち寄ってくれる方もいる。以前看取りを行った家族が立ち寄ってくれたり利用が終了した後も培われた関係性を大切にしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の性格や人間関係を十分に考慮しスタッフが間に入り、声かけしております。レクリエーションや座席についても、ご本人の要望、入居者同士の相性を考慮しレクリエーションの種類を分けたり座席の位置を決めております。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもご相談があればいつでも対応させて頂きます。病状悪化等により特にハード面での対応が困難な場合で、他のサービスを希望される場合調整をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情の中から、ご本人の本当の想いというものをくみ取るようにしております。利用者側から考えてどんな生活を送りたいかを念頭にミーティングや日々の業務確認で検討しております。	その日、時間帯によっても感情の浮き沈みや態度、会話から変化の気づきを察知し、申し送り時間以外にも口頭で職員全体に行き渡るように伝え、対応の仕方を柔軟に変えている。一人ひとりの暮らしが理念に沿ったものになるよう努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、担当ケアマネージャーからそれまでの生活をお聴きし、入居後もご本人との会話を通してどのような生活をしてきたか把握するようにしております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活やバイタルサインを記録及び申し送り帳に記載しています。介護記録は時系列に記入する形式となっており普段どのように生活されているか職員全員が把握するようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人から要望等をお聴きし、ミーティングで全職員で検討し介護計画に反映させております。	家族からの情報をニーズとし、計画に取り入れている。ミーティングでは一人ひとりの担当制を設けながらも職員全体で目標の評価を行い、介護計画に反映させている。また、計画に沿った対応方法になっているのか都度確認しあっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他、入居者申し送り帳にも変化があったことを記入し、全職員が情報共有し、日々のケアの他、介護計画にも反映させております。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的にご近所や町内の方から声をかけて頂き、地域の中で安心な生活ができるよう支援しております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、定期的にかかりつけ医が往診にきております。歯科は必要時に訪問診療を依頼しております。かかりつけ薬局は施設向かいにあり、迅速に相談できる体制となっております。	入居前からのかかりつけ医に通院している利用者、往診を受けている方、希望に沿い負担なく医療を受けられるようにしている。生活状況や食品内容まで記録を提示し、医師、薬局とも忌憚なく話し合える関係が築かれている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に法人内他施設の看護師が勤務し健康管理、リハビリテーションを行い、介護職員にアドバイスしております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、病棟看護師に施設での生活状況をお伝えしております。治癒後は速やかにホームで受け入れることもお伝えしています。今後もし入院される方がいた場合には、当ホームの看護師から入院先看護師へ適切に情報を伝えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ひなたにおける看取りの指針を作成し、ご家族様へお伝えしております。また当施設の設備面(特にハード面)での対応の限界となった場合のフォロー(特養への入所等)についてもあわせて説明しております。	看取りの希望が家族からでた場合は法人としてできる限りの方法で対応している。家族、医師、職員 対応方針を共有し、連携を図りながら支援していく体制にある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、急変時マニュアルを元に協力医療機関の医師に24時間連絡できる体制をとっております。また外部研修などにも参加し緊急時の対応について交代で実践し、全職員で共有するようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を実施し、そのうち1回は夜間検証として、消防署員立ち合いのものを訓練しております。夜間はホームセキュリティーの緊急連絡システム(自動火災報知機し地域の協力を得ています。	年2回災害訓練を実施している。全職員交代で消防通報までの時間を計測し、職員が慌てず確実に誘導できるように実施している。災害の発生時に備え、食料や飲料水、排泄等の物品の整備の他、指定の避難場所以外の状況も把握し確認している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の想いを尊重し、自尊心を気づけないようにお声掛けさせて頂いています。言葉遣いには十分に注意し対応する様に徹底しております。	一人ひとりの思いを尊重するために、どの言葉に敏感なのか、接し方についても少しずつ情報を集めミーティングで話し合い、職員間で共有している。本人の話は否定せず、利用者に合わせて言葉使い、秋田弁の丁寧語で対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話や、表情からご本人の思いをくみ取るようにしております。またその思いを出る限り、自分で選択・決定できるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで生活して頂けるようにしております。家事の手伝いをされる方や、自室で読書されたり、リビングで休まれる方と様々な過ごし方をさせています。ただし最低限生活ペースが乱れないように配慮させていただいております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や入浴時はご本人が着たい服を選んでいただくようにしています。化粧も自分で出来る方はお任せし、できない方は声掛けの上お手伝いしております。男性は髭剃りを起床時に声掛けさせてい頂いております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から、食べたい献立などを聴き、可能な限り楽しく食事していただくようにしております。また食事の準備に関しても声掛けさせていただいてから、ご自分で出来ることを職員と一緒に手伝っていただいております。	法人の方針により、食材は通信販売で購入している。通販が休みの日は、カレーの日を設けたり、焼き肉やおやつレクリエーションなど、できる限り楽しめるように職員が工夫している。土崎港祭りのカスベ煮、ケーキのデコレーション、季節や場面で見出している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分摂取量・体重の増減などもチェックし医師の往診時に相談し食事・水分提供しております。飲み物は、ご本人の好きなものを召し上がっていただいております。発熱時にはOS-1などで対応しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内を確認し、うがいをしております。歯磨きや義歯洗浄が自分で十分に出来ない方にはは援助し、義歯は就寝前にお預かりし洗浄剤へつけております。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛けしトイレでの排泄ができるようにしております。オムツの使用も必要最低限になるように対応しております。ミーティングでもできる限りオムツをしようしないケアを検討しております。	訴えのない方は定時にトイレ誘導を行ない、利用者にあったタイミングで支援している。できるだけオムツやリハビリパンツを使用せず布パンツを着用し、排泄できるよう検討している。体調を崩し入院、退院後、立位困難でオムツとなってしまった利用者へも時間をかけ対応し、外れたケースがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取量の確保、ラジオ体操等無理の無い運動を毎日行い、牛乳・ヨーグルト等の乳製品の提供も毎日行い便秘予防に努めております。食物繊維の多い食材もできる限り提供するようにしております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り個々のタイミングで入浴して頂けるようにしていますが現在はリズムが習慣化しております。ただし当日今日は入浴したい気分で無いとの訴えがあれば曜日を変更してご本人の気持ちに沿えるよう努めております。	ある程度の予定は立てているが、その時々希望、健康状態に合わせた支援を行っている。また、皮膚状態を観察し、肌の改善に向け石鹸を変えたり、洗身ネットの素材を変えるなど、細かな配慮に努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のリズム、落ち着ける環境を把握し休息して頂けるように配慮しております。日中の睡眠については過度になりすぎないように支援させて頂いております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等については主治医及び薬剤師から指示・助言をいただき、向かいに薬局がありますので都度不明な点があればすぐ確認対応できるようにしております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことなど、率先してやって頂いております。ただその日の体調等も見ながら無理強いせずご本人のペースで行っていただいております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした買い物の時に一緒に外出して頂いてコーヒーを飲んだり、ご本人から希望があればドライブ等も実施し普段行けないような場所にも行けるよう配慮しています。ご家族がご一緒に外出される場合も体調に問題ない場合外出していただいております。	日常的に散歩や買い物に外出しているほか、千秋公園の桜見、道の駅へ山菜の買い物、海の家でのかき氷等、季節を感じるができる外出の支援を行っている。外出を通し活動的になり、介護5から介護2に改善した利用者もおり、生き生きと過ごせるように取り組んでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じて自己管理をしていただいております。買い物の際は入居者の方が自分で選び、自分で支払えるように支援させて頂いております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいという要望があればプライバシーに配慮したうえで自室で電話の子機を使用しかけていただいております。お手紙についても希望があれば支援しております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンなどで適度な温度管理を行っております。照明やカーテンで調光し、花や利用者の方が書かれた絵などを飾りこちよい空間作りに努めております。	1Fのフロアは食事や楽しみ事、2Fのフロアはゆっくりくつろぐスペースと利用者も認識している。無理な装飾はされておらず、自然な光や花など、居心地の良い共用空間になるよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で新聞を読まれる方は窓際のソファでくつろがれ、お話しされる方はテーブル席や大きめのソファでくつろいで頂けるようにしております。ご家族・ご友人等が面会に来られた際は2階のソファを利用されております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には事前に自由にお持込できることを説明し、入居生活を続けていく中で徐々に自分らしい居室が作られております。入居後も写真や誕生日の際のプレゼントなど、使い慣れたものを置きながらホームでの思い出の物も置かせていただいております。	入り口までの動線の中で、移動時に転倒につながる危険性のある置物や家具は職員が利用者と一緒に話し合い配置を考えているが、自由に自分らしい居室になるように馴染みの物を持ち込み、居心地良く落ち着いて過ごせるよう努めている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具の他、建物内部には手すりなどを追加し設置し、安全に生活できるようにしております。一人一人に合わせた誘導や見守りを行っております。		